

拭き方の基本的な動作

✓ 手指が触れる場所・モノを意識する

✓ **天井→床 部屋の奥→入り口**
の順に進めます
同じ場所は拭かない

✓ **往復拭きはNG!**
一筆書きのようにゆっくり動かし一方向に拭いていく
グルグル回したり、ササッと拭くと
拭き残りが出て菌を広げてしまいます



②消毒の実施（消毒方法について）

清拭できない場所やモノは？

・カーペットなどの布や紙類は・・・

洗濯できない布類等はアルコールで噴霧（吹付）を行いましょう

※塩素は脱色してしまう危険があります。

※生地やコーティングなどにより、アルコールも使用できない場合があります。

- ・ 不要な紙類（雑誌など）は廃棄する、などしましょう
- ・ 清拭して5分放置後、軽く水拭きするとよいでしょう
- ・ 変色や変形などが不安な場合は試しに少し噴霧等して様子を見ましょう
- ・ 洗濯できるものはビニル袋に入れ、縛って洗濯機へ（次ページ）

②消毒の実施（対象場所）

陽性が疑わしき人が滞在した場所の周辺と、利用した場所を設定しましょう。そこが消毒対象です。

- 室内：照明・スイッチ・リモコン・テーブル・椅子・PC・家具・冷蔵庫などの家電（手で触る+つばが飛ぶ場所）・受話器
- 出入口：ドアノブ・インターホン・手すり・EVボタン・下駄箱・上履き
- 水回り：トイレ・水栓レバー・便座カバー・洗面台・蛇口・タオルスリッパ・個室のカギやハンドル
- オフィス：デスク回り（2m程度を目安に）・PC機器・休憩スペース

②消毒の実施（消毒方法について）

対象場所は清拭（薬剤によるふき取り）を実施しましょう

- ・ **手指が触れる場所やモノは特にふき取ること**
- ・ 部屋では**奥から手前**へ、場所では**上から下**への流れでふき取ります。
 - 部屋の奥から部屋の入口に戻るように（ワックスを掛けるように）
 - 壁の上から始め、目線の高さ、最後は床（上から下へ一筆書きのようにして拭きムラや拭き残しをなくすようにします）

【さらにこんな工夫をされている場合も】

- ・ テーブル等は外側から内側に向けて渦巻のように拭く
- ・ 壁は一定の方向（上から下）を繰り返して拭く（少し重なるように）

※拭きムラをなくすため、丁寧に初めから最後まで同じような流れで清拭するのが好ましいです
ウイルスをまき散らす危険等も考慮したやり方もあるようですが、まずは拭きムラを減らすことがポイント！

②消毒の実施（消毒方法について）

清拭できない場所やモノは？

- ・洗濯する場合：衣類・リネン類・カーテン・マットなど
 普段使いの洗濯用洗剤に塩素系漂白剤を適量加えても良い。（用法・用量は製品ラベルにご確認ください）
 ※基本的に通常の洗剤だけでも問題ありません。

★洗濯する前のものはビニル袋に入れ、口を縛って持ち運びましょう

- ・浸漬（つけおき）消毒の場合：
 お皿や食器具などは塩素系消毒剤に5分間浸漬

注意：汚れは洗剤等で落としてから浸漬殺菌。全体が浸るように！

④後かた付け：ゴミの捨て方の注意点

- ✓ あらかじめゴミ袋は広げておく

- ✓ **汚染面は使わない！**
 紙ウエスはこまめに取り替え
 汚れたら捨てていく

- ✓ 最後は手袋もゴミ袋へ
 しっかり封をして
 フタ付きのゴミ箱へ



④後片付け：手洗い

②③②③ 2回繰り返す



①流水で予洗いする

不十分になりやすい箇所を念入りに



②石鹸を十分に泡立てながら揉み洗う



③石鹸を洗い落とす

爪の先はすりこむように



④ペーパータオル等で水気を除去し、よく乾燥させる



⑤手を殺菌する

アルコール殺菌前の乾燥が大事！タオルの使い回しはやめましょう

消毒作業の前後はもちろん、休憩前や休憩後なども必ず実施しましょう。

市販されている消毒液の調整方法と消毒方法(例)

消毒液	市販濃度	濃度	対象	方法
次亜塩素酸ナトリウム	主に5~6%	0.1% (1000ppm)	感染している疑いがある人が使用したトイレの消毒	①ペーパータオルや不織布等に薬液を十分に含ませて清拭し、自然乾燥させる ※濡れている場所や排泄物(汚物)がある場合、水気を取ったり、排泄物をペーパータオルなどでふき取ってから消毒しましょう。
		0.05% (500ppm)	手で触れる部分の消毒 ○家庭内: ドアノブ・取手・テーブル・トイレの便座・蛇口・レバーノズル・スイッチ・押しボタンなど ○施設の共有部分: ボタンやスイッチ(エレベーターやプッシュ式スイッチなど)、ドアノブ・共有カゴやカートなど	②次亜塩素酸ナトリウムで金属部分等を消毒する際はサビ・変色を防止するため、消毒終了後に水拭きしましょう。 ※次亜塩素酸ナトリウムなどの消毒液の噴霧(スプレー)は不完全な消毒やウイルスが舞い上がる可能性があるため避けましょう。 消毒用エタノール(アルコール)を使用する際は火元や電源付近で使用しないようにしましょう。
消毒用エタノール	70%前後	そのまま使用	手で触れる部分の消毒 ○上記 手指の消毒	上記①に加え、スプレー噴霧などでの使用も可能